植村隆

ヒラ社長が行く

Vol.223

鹿砦社広告で「おわび」Colabo攻撃を許さない

イラストレーション／信濃八太郎

本誌2023年6月16日号の裏表紙に、虐待や性被害などにあった女性を支援する一般社団法人「Colabo（コラボ）」の仁藤夢乃代表やLGBT関係者を誹謗中傷する書籍『人権と利権「多様性」と排他性』（鹿砦社刊、森奈津子編）の広告を不手際で掲載してしまった。トランスジェンダー当事者で性的少数者の人権問題に取り組む仲岡しゅん弁護士（大阪弁護士会）への殺害予告が届いたことを批判的に報じる記事を掲載した号だった。

こうした本誌の「矛盾」もあり、ツイッターなどで激しい批判が広がった。「今は極右の雑誌なの？」「終わっとるな」「いい加減に鹿砦社の広告を載せるのを止めた方がいい。言論の自由とヘイトの自由は別でしょ」……。胸が痛くなった。仁藤代表が本誌を「最悪」と投稿していたことも後で知った。

同書はアマゾンでは売り切れており、21日、社員が鹿砦社の東京編集室で買って来た。仁藤代表はネット上でデマや誹謗中傷などの激しい攻撃を受けており、それにかかわった人物を名誉毀損などで訴えている。同書の表紙には、Colaboのバスの写真。それが傷つけられているように見える。ナイフでバスが傷つけられた事件は実際起きており、それを想起させる。口絵では、「なぜ Colabo はピンクのバスにこだわるのか？　仁藤氏にとって、新宿の繁華街で性搾取される女の子の救済はあくまで手段、方便であり、それよりむしろ彼女が大好きな『ピンク色のバスカフェ』を維持することを優先しているのではないか」とする。別の口絵では「Colaboの新宿事務所は歌舞伎町2丁目のHビルにある（中略）。ピンクばかりではったりをきかせる張子の虎、イメージ戦略の生臭さが浮上する」と。憎悪を駆り立てるような記述だ。同書は、LGBTは「生産性がない」という趣旨の発言で批判された杉田水脈氏を繰り返し擁護する。広告を載せるべきでなかった。

22日夕方の役員会で、6月30日号で「おわび」の社告を出すことや今後の鹿砦社広告の取り扱いについての方針を決めた。

道義、正義に立脚する

翌23日、「おわび」を書いた。「その内容は当社の広告掲載基準（内規）で、『掲載できない』としている『差別、プライバシーの侵害など基本的人権を侵害するおそれのあるもの』に該当するものと考えられます。しかし、広告ゲラの内容を十分チェックしないまま、掲載してしまいました。この広告で、Colaboの仁藤夢乃代表やLGBT関係者の皆様の人格を傷付け、その尊厳を否定する結果となってしまいました」。

同日午後、文聖姫編集長が大阪の仲岡弁護士に電話で謝罪した。

同日夕、鹿砦社（兵庫県西宮市）の松岡利康代表取締役に電話で「おわび」を出すことや理由を伝えた。松岡代表は「基本的人権を侵害していない」と話していた。

26日朝、私は社内の全員に、こう連絡した。「ある雑誌が、本の広告を出して、その広告が問題になった時、『当社は本の内容についてまで責任を負う必要がない』と強弁することは、法的に可能かもしれません。しかし、『週刊金曜日』はそういうことを主張する会社であってはならないと考えます。道義、正義に立脚する会社だと思うからです」。

27日午後、文編集長とColaboの事務所を訪問し、仁藤代表に6月30日号を手渡して、謝罪した。仁藤代表は「差別や暴力に反対し人権を尊重する姿勢を確認させていただき安心しました」とツイッターなどで発信してくれた。翌28日、Colaboの活動に同行し、活動の意義と性搾取問題の深刻さを認識した。「Colabo 攻撃を許してはならない」と思い、30日にサポーター会員になった。

7月7日（金）には鹿砦社の松岡代表と面談する。

うえむら　たかし・『週刊金曜日』発行人。

6月27日の『週刊金曜日』の謝罪を伝えるColaboの仁藤夢乃代表のツイッター投稿

仁藤夢乃 Yumeno Nito
@colabo_yumeno

週刊金曜日 @syukan_kinyobi の社長の植村隆さんと編集長の文聖姫さんがいらっしゃり、Colabo攻撃に加担する雑誌の広告が掲載されたことについて謝罪していただきました。6/30発売号で謝罪文も掲載されるとのこと。

女性支援に対する攻撃についても今後も共に見つめてくださるとのこと。誠意ある対応で、差別や暴力に反対し人権を尊重する姿勢を確認させていただき安心しました。